

2014年度 第2回

平安朝文学研究会 研究発表会

日 時 2015年3月7日(土) 14:00～17:25

会 場 早稲田大学 戸山キャンパス(文学学術院) 39号館5階 第5会議室

○ 研究発表(14:00～15:00 15:10～16:10 16:25～17:25)

荒井 洋樹(早稲田大学大学院文学研究科 修士課程)

「内裏屏風」について

十世紀に流行した屏風歌の中には、「内裏屏風」と称される一群がある。天皇が依頼した屏風であるが、祝賀屏風とは区別される。天皇自身が使用するために製作したと考えてよい。本発表では、その範囲を浮き彫りにしながら製作意義について検討する。

ノット・ジェフリー KNOTT, Jeffrey(スタンフォード大学大学院博士課程/早稲田大学外国人研究員)

『雨夜談抄』の原姿と変容——諸伝本にみえる宗祇説の流布とその意義——

貴顕の発起した講釈の余興として著された宗祇の帚木巻注『雨夜談抄』は、現存伝本の数からも分かるように、後代に幅広く、また長らくさまざまな形で受容されることとなった。本発表では、諸本の多様な書き入れなどを含めた解析を通して、その流布と受容の諸相について考えてみたい。

柳 川 響(早稲田大学日本古典籍研究所 招聘研究員)

藤原忠通の文壇と漢詩

藤原忠通は和歌と漢詩に優れ、家集『田多民治集』と漢詩集『法性寺関白御集』が残っている。忠通は院政期の歌壇や詩壇を考えるうえで重要な人物であるが、これまであまり研究されてこなかった。本発表では忠通の文学的活動を概観し、忠通の詩壇や漢詩の特徴について考察したい。

○ 懇 親 会(17:45頃～) 会 場 かわうち 電話 03-3205-4129(新宿区西早稲田 2-3-22)

※どなたでもご参加になれます(無料)。

※当日は、同会場で13:15より委員会を予定しております。

◎お問い合わせ 平安朝文学研究会事務局(早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内)

E-mail: jinno@waseda.jp